

スカウトちば

SCOUT CHIBA

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

Vol.96

2020年9月1日発行

千葉第6団●ボーイ隊

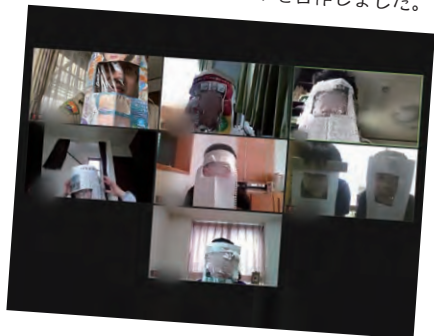
まだまだ続く活動自粛の中、隊長から提案があった房総の伝統郷土料理「太巻き祭りすし」にスカウトがチャレンジしました。



パフアロー班R・S寿司職人の作笑顔は「正ちゃん」という元気な男の子を表します。
笑顔がみんな違って面白い。
上のは「山」?

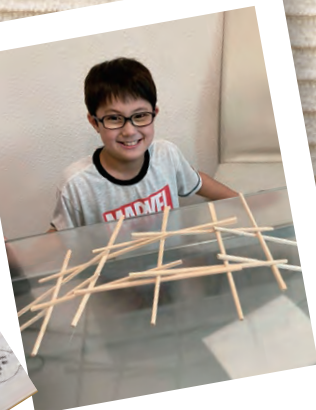
柏第7団●カブ隊

コロナ感染防止用のフェイスガードを自作しました。



市原第6団●カブ隊

指令書で示された設計図を見ながらの割り箸クラフトです。



船橋第3団●ボーイ隊

SDGsについて討議のオンライン集会と、自粛期間が明けてのソーシャルディスタンスを保持しての隊集会です。



柏第10団●ビーバー隊

5月の第二日曜日は母の日です。ビーバー隊は先輩スカウトから絵描き歌を教わって書きました。

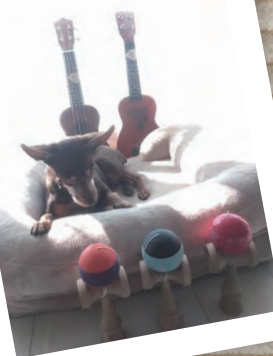


真剣に作画中の画伯

おうちスカウティングに取り組む

コロナ感染防止の観点からオンライン集会で実施した活動プログラムの一例です。

千葉第18団●カブ隊
写真コンテストの優秀作と、オンラインなかよしの輪です。



100 YEARS OF SCOUTING IN JAPAN

1922 - 2022

第16回ケソン派遣を終えて

1979年に始まったボーイスカウトフィリピン連盟ケソン市協議会と千葉地区協議会との交流は、2019年で40周年の節目を迎えました。そこで昨年12月に40周年記念の派遣を実施することになり、指導者5人・スカウト12人の総勢17人が12月27日から1月2日の7日間の日程で、キャンプやホームステイをしながら交流を深めてきました。

千葉第21回
派遣隊副長

味村 章

今回の派遣隊のモットーは「楽しくなければスカウティングじゃない」で、何でもやりたいことをやろうというのが活動方針でした。参加したスカウト達は、このことをきちんと理解し考えながら行動してくれたため、交換プログラムは成功だったといえます。



ケソン市庁舎にて



日本文化紹介(習字)



イカダラフティングに挑戦

千葉第27回
ローパスカウト

村上 真優

ケソン派遣を通じて、自分の目でフィリピンの文化や歴史、行事・習慣、人柄を観察・体験し、自分にとって本当に多くの収穫がありました。この収穫を今後のスカウト活動はもちろんのこと、例えば国際問題を考える際など、様々な場面で活かしていきたいです。



【スカウトちばANNEX対応記事】

スカウトちばANNEX 96号 ケソン派遣

http://www.scout-chiba.jp/member/sc_annex/4455/

Quest Adventer Camp (キャンプ場にて)



息の長い支援活動を

我孫子第1団は、2017年秋から難民支援衣料回収プロジェクトに参加しています。春・秋の衣替えの時期に、不要になった子ども服を提供していただけるよう保護者に呼びかけていますが、秋のキャンペーン時には地元の「あび子どもまつり」でも回収ボックスを設置して、一般の方々に衣料の提供を呼びかけています。

今年参加したスカウトは、「隊長の話を聞いて、洋服に困っている・欲しいと思っている人に届いて、役に立てる事が嬉しかった。」と話していました。奉仕活動の際には、子どもたちが指導者や保護者に言われたからやっているだけにならないよう、事前にその活動の意義を伝えることはもちろんのこと、その結果についての情報もフィードバックするよう心がけています。また、その時だけではなくいつも心がけること、そして大人が率先してその姿勢を見せることが大事です。以前ハイキングの際に「このゴミは拾わなくていいの?」とスカウトに聞かれてハッとしたことがあります。指導者を経験された方なら一度や二度そうした経験があたりだと思いますが…。

我孫子第1団ではこの他にも公園や道路の清掃、手賀沼に生息する特定外来生物の水草ナガノツルノゲイトウの駆除、老人ホーム訪問、募金活動などの奉仕活動をしています。奉仕には教育と、団として社会の役に立つという二つの側面があります。一過性で終わることなく、息の長い活動になることを願っています。



富士スカウト章取得者紹介・—— 千葉地区 千葉第9団

よき仲間に恵まれて

ローバースカウト

村井 岬樹

富士スカウト章へ挑戦するなかで他者のために何ができるかを考える機会が多く、そのうち印象深いのは自団の野営地整備を行ったことです。自身が経験したことの楽しさ、面白さ、学びを後輩にも味わってほしいという思いは元から強く、以前に上級班長を務めたときも意気込んでいました。そして、開拓整備作業をするなかで指導者として運営に参加しているローバースカウトを除き、最年長のスカウトという自分の立場を実感していきました。

これまでに第16回日本ジャンボリーや第23回世界スカウトジャンボリー、ヒューストン派遣をはじめとした多くのプロジェクトなど、よき仲間に恵まれて貴重な体験ができたと思います。これからは先輩に道を整えてもらったように、私の活動は教わったことを還元していく役割が中心になると考えています。私にスカウト活動をさせてくれた家族への感謝、指導してくださった先輩方と指導者の皆様への感謝を胸に、後輩たちに少しでも多くの学びの機会をつくって恩返しをしたいと思います。

保護者●村井 寛之

富士スカウト章への挑戦は、高校1年の夏からでした。千葉地区のアメリカヒューストンとの交歓プログラムに参加し、交流したスカウトがアメリカの富士スカウト章にあたるイーグルスカウトだったことに触発されたからと記憶しています。高校の部活動で得られる経験より、ボーイスカウトの活動で得られる経験が魅力的で、今後も自分が成長できると考えたようです。

息子は、カブ隊くまからのスカウト活動開始でしたが、ボーイ隊、ベンチャー隊と活動の場は大きく広がり、多くの友人や指導者に会い、ボーイスカウトでしかできない経験を通じて、学びや気づきを得て、富士スカウト章取得に至りました。

富士スカウト章取得は、自隊の隊長、副長のご指導はもちろんのこと、派遣隊、プロジェクト、技能章の指導をしていただいた他団の指導者の方々、ボランティア先の施設の職員の方々、親の见えないところで、多くの方々にご尽力を賜りました。この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



向かって左端が村井スカウト(写真提供:ボーイスカウト日本連盟)

●富士スカウトによる環境大臣表敬訪問

2019(令和元)年は、30県連盟145人が富士スカウト章を取得しています。環境に関する取り組みを行ってきた代表スカウト6人が、令和2年2月18日小泉進次郎環境大臣を表敬訪問しています。千葉県連盟の村井スカウトがその中の1人に選ばれました。

●ご本人の感想

令和2年2月18日、6県連盟の富士スカウト6人で小泉環境大臣を表敬訪問いたしました。各スカウトの環境への取り組みや、自身の活動について報告する時間をいただき、私は、野営場での温水装置作りについて説明しました。他のスカウトの取り組みを知る機会ともなり活動の中で環境への取り組みを進めていく新たな決意を持ちました。

災害ボランティアに参加して・—— 南総地区 袖ヶ浦第1団

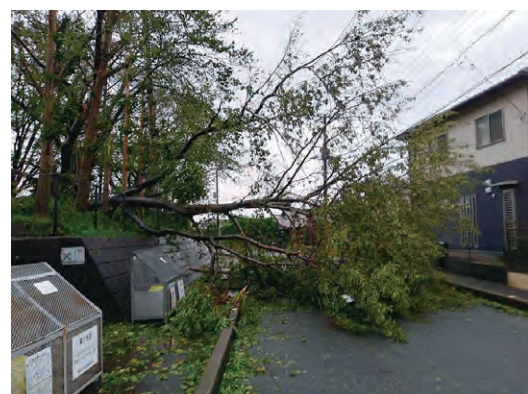
ローバースカウト
(現ボーイ隊副長)

鶴岡 侑真

私は、南総地区ベンチャーが「令和元年10月25日水害」の災害ボランティアとして活動する計画だったので、引率する南総地区ローバーを代表して、一足先に下見を兼ねて被災地である長生郡長柄町に入り、11月8日に災害ボランティア活動を行いました。

内容は、浸水被害を受けた住宅での家財道具の運び出しやごみの分別・搬出、食器洗浄、床板はがしなどで、重労働でした。しかし、一緒に活動したボランティア同士で協力し、また物心両面から支援していただいた災害ボランティアセンターの方々のお陰もあり、無事作業を成し遂げることができました。最後に活動場所の住民の方からお礼の言葉をいただいた時には大きな達成感がありました。

今回の経験を通して、自らが被災することを想定した備えはもとより、他者が被災した場合に自分に何ができるのかを考えておくことも必要だと感じました。なお、残念ながら11月23日に予定されていた南総地区ベンチャーの奉仕は天候不順で中止になりました。



活動の楽しさ

楽しんでますか？

楽しい活動を継続し、令和元年度にビーバースカウトやカブスカウトの仲間が増加した団の取組を紹介します。

ボーイスカウトと一緒に地球の自然で遊んじゃおう！

船橋地区 白井第1団

白井第1団は、白井市、船橋市小室、印西市千葉ニュータウン中央駅周辺の広範囲のスカウトが所属している団です。団名変更などがありましたので、一般の方々に活動をどのように知ってもらおうか意見を出し合い、5月にコマ図ハイク、6月に野外料理などを行い、約30人のご参加をいただきました。

参加されたお子さんはビーバー隊やカブ隊のスカウト達と一緒にプログラムに参加し、野外料理ではボーイ隊やベンチャー隊、ローバー隊のスカウト達が火起こしなどキャンプでの得意分野を発揮し、皆様から「とても楽しかった」との感想をいただきました。

年代別でのプログラムについてや大学生の年代までスカウト活動が出来るのかなど、突っ込んだ質問を受けました。入団したスカウトの保護者からは「自主性、社会性などを身に付けてほしいので入団しました。そして楽しく活動に参加し、自分で活動の準備などをするようになって良かった」などの感想をいただきました。

今後もボーイスカウトの一貫した教育方針を知っていただき、スカウトの仲間を増やして楽しく活動していきたいと思います。



色々な学年の仲間と協力して

南総地区 袖ヶ浦第1団

カブ隊長

松尾 千佳子

ボーイスカウト体験会は学校などの新しい環境に慣れて余裕が出来る5月の後半に実施しました。募集案内は、市内の幼稚園、保育園、小学校へのチラシ配布及び市広報誌と市の子育て支援サイトで行なった結果、30

世帯の皆さんに参加して頂くことが出来ました。

この、ボーイスカウト体験会后入隊したスカウトや保護者の感想を見ると、違う学校、色々な学年の仲間と協力する事や新しい経験を楽しんでいる様子を楽しんでいることがわかりました、これこそスカウト活動です。

さらに仲間を増やして楽しい活動になるようにして行きたいと思います。

カブスカウト

高山 詩恩

昨年、しかスカウトから入隊しました。違う学校、学年のスカウト達といろいろな意見を出し合いながら1つのものを作ったり、スタンプを行ったりすることがとても楽しいです。今はコロナウイルスのため、みんなで一緒に活動することができないのでチャレンジ章に取り組んでいます。

保護者●高山 かおり

カブスカウトに入り、たくさんの経験ができました。協力する、シェアするなど仲間がいなければ学べないことを学べていると思います。

カブスカウト

氏家 更紗

私はカブスカウトの活動がとても楽しいです。学校以外の友達が出来たこと、色々な事を体験して知らなかったことを知ることができ、そして、今までよりも色々なことに興味を持つようになりました。これからたくさん体験をしたいです。

保護者●氏家 明子

カブスカウトに入り積極性が増したように感じます。活動を通し、達成→自信につながっていると思います。





仲間が増えました。—— 八千代・習志野地区 八千代第2団

八千代第2団では、令和元年度15人の新しい仲間が増えましたが、実は私たちの団では入団説明会などの募集活動は行っておらず、スカウトが友達を誘ったり、保護者からのご紹介だったり、あるいは団のホームページをご覧になって入団される方が多いです。

現在はスカウト登録数57人と3年前から比べると19人増加しました。その取り組みの一端をお知らせします。

カブ隊
デンリーダー

五十嵐 千賢

3年前の4月、私が子供を連れて初めてカブの隊集会を見学に来た時、参加スカウトはたったの2人でした。そこから今では27人まで増やすことができました。ここでは、その方法論はさておき、どのようなことを「意識」して組織の拡充を進めてきたのかをご紹介します。

ポイントは2つ、「全員参加」と「顧客視点」です。「全員参加」とは、一部の指導者主導ではなく、保護者それぞれが提供できる「時間」や「能力」の範囲内でサポートし合って活動するということです。役割を持つことで自然と活動に愛着がわき、スカウトや隊のためにがんばろう!という意識が生まれてきました。2つ目の「顧客視点」とは、活動において「スカウト」「保護者」を顧客と捉え、そのニーズを満たすことです。スカウトには「ワクワク魅力ある活動」の提供です。保護者には「子どもの成長を実感できる機会」の提供です。

新規入団の多くは、現スカウトの紹介です。つまりスカウトと保護者の満足度が上がると、クチコミで評判が広まり、見学→入団と繋がるわけです。特別なことをする必要はありません。今皆さんの目の前にいる保護者とスカウト、その人たちの為に何をすべきか、それをまず考えてみてはいかがでしょうか。

カブ隊副長

及川 育美

学校では親友と呼べる友達ができなかった息子が、ビーバー隊から入隊し、ここで親友と呼べる友達ができました。悩んでいた息子を見ていた母親としては、本当に嬉しいことでした。今ではその友達とチャレンジ章の数を競えるライバルでもあり、共に富士スカウトを目指す同志です。

そのスカウト達のモチベーションを下げたくない、富士スカウトになる夢をなんとか叶えてあげたい、その一心で、副長やデンリーダーとして、どうしたらスカウト達が楽しいと感じてくれるか、もっと積極的に活動に取り組んでもらえるのか、ということを保護者同士でも話し合ってきました。

まずは、「スカウトの数が増えた方が、隊の活動が充実し、楽しくなる」と考え、広報活動も積極的に行っています。体験に来たスカウトには、デンリーダーが組のスカウトと一緒にケアをし、その保護者には副長からカブスカウトの活動について丁寧に説明をする、という指導者の中でも役割分担をして対応しています。

またスカウトだけでなく、保護者にも「活動が楽しい、お手伝いをしたい」と思ってもらえるように、保護者間のコミュニケーションを密にするように心がけています。保護者にアンケートを実施したり、何気ない会話の中に上がってきた、小さな不満などをそのままにしたりせず、隊で解決できることは解決し、難しいところは団にも相談し、少しずつ改善するように努めています。

その結果、スカウト達は毎回本当に楽しそうに活動しています。ライバルとチャレンジ章の数を競い合い、各組対抗の活動では、1人1人が組の中での自分の役割を理解し、真剣に話し合い、協力して活動に取り組むことで、勝っても負けても絆が深まります。まさにカブスカウトの理想の活動が出来ているのではないかと思います。その楽しさをスカウトは学校で友達に話し、その友達が体験に来て、入隊につながります。

さらに、そこで入隊した保護者の感想は、「担任の先生から、1学期にはクラスで一番おとなしいと言われていた子が、2学期になって、何かありましたか?表情がとても変わりました。と言ってもらえた」とか、「クラスでは、よくリーダーシップを発揮するようになりました、と担任の先生から言われた。」などであり、子供の成長を実感したその保護者もまた友達に声をかけて、体験に誘ってくれるようになっていきます。

スカウトの数を増やしたいと考えるのであれば、まずは指導者が、どのような隊にしたいのか、子供達をどう成長させて行きたいのか、という目標を持ち、指導者自身が活動を積極的に楽しむこと、スカウト、保護者の思いを受け止め、充実した活動を計画することが大切だと思います。

報道の仕事は人間力が全て

ボーイスカウト
インストラクター

和田 弘江

大学卒業後から日本テレビで報道の仕事をしています。ニュース番組のアシスタントディレクターから始めて、ディレクター、そして現在は社会部の記者をしています。主に事件や事故、災害の取材などをする部署です。

「平成」から「令和」へと時代が移りゆく中、私は「皇室日記」という番組ディレクターをしていました。皇室の取材は他の取材に比べて制限が多く、なかなか独自の取材が出来ません。そんな中、ボーイスカウトが皇室とゆかりがあることを知りました。取材を続けると、なんと、天皇陛下は皇太子の時代にボーイスカウトのキャンプをされたというではありませんか! 長年、宮内庁を担当しているベテラン記者でも知らないというこの話。なんとか当時の話を伺えないか...

ビーバースカウトの時からお世話になっている香取の団へ相談し、関係者へ取材のお願いをしました。そして貴重な写真と共に無事、放送することが出来ました。

「報道の仕事は人間力が全て」といわれています。私たちの仕事は誰かのナイス話を教えてもらうことです。「あなた【だから】話します」というのが最高の褒め言葉。そんな信頼関係を築くための人間力の基礎は、スカウト活動で培ったように思います。スカウトのおきて「誠実である、礼儀正しい、感謝の心を持つ」など、人として当たり前のことが、社会にでると、いかに出来ない人が多いか思い知らされます。学校でも塾でもない、スカウト活動でしか学べない大切な事は、あなたの将来にきっと役に立つはずですよ。



「zero選挙2019」中継ディレクターとして中継車にて。



every.「今が旬!初ガツオ」企画で千葉・勝浦漁港にて。

地域でボーイスカウトの魅力を発信しよう!

ボーイスカウト日本連盟が文部科学省から受託した「子どもの心身の健全な発達のための子どもの自然体験活動推進事業」を、千葉県連盟でも「ボーイスカウトとあそぼう! ワクワク自然体験あそび」として各団のご協力を頂き開催します。

この事業は、地域の子どもたちに、団や隊での活動をとおして自然体験を提供するものです。事業を通して、地域でボーイスカウトの魅力などを発信していきます。

詳しくは、ホームページをご覧ください。
<https://www.scout.or.jp/wakuwaku2020/>



【95号記事訂正】

95号進級章取得状況報告に誤りがありました。お詫びして訂正します。 菊スカウト章 20.新井 紗彩 柏第1団(正) 旭第1団(誤)

広報関連スタッフ募集中

運動拡充委員会では、「スカウトちば」やホームページなどの広報を充実させるため下記のスタッフを募集しています。下記のスキルに該当する方々で、自薦、他薦を問いません。

応募条件

ローバースカウト、成人指導者で以下に該当する方

- ①写真、映像撮影、編集が出来る方
- ②イラストレーター、記事編集が出来る方
- ③ネット発信・拡散などが出来る方
- ④Webのデザインなどが出来る方

詳しくは下記を参照下さい。

http://www.scout-chiba.jp/member/movement_expansion/3774/



県連盟公式フェイスブックファンページ開設

県連盟では、県連盟、地区や団の活動報告を行うためにフェイスブックのファンページを開設しました。団や隊で発信したい場合は、ファンページのメッセージからお知らせ下さい。

<https://www.facebook.com/scoutchiba/>



【発行者】

日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒260-0001 千葉市中央区都町2-1-12 千葉県都町合同庁舎4階

TEL.043-235-8070

運動拡充委員会 編集責任 山本 勲

詳細は、日本ボーイスカウト千葉県連盟ホームページをご覧ください <http://www.scout-chiba.jp>



お問合せは